

Namaste

お釈迦様の ほほえみ



時宗布教伝道研究所員 小田 義宗

時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

今回はインド国内外から多数の人々がやってくる大巡礼地『ベナレス』と、その町を聖地とするインド最大の宗教「ヒンドゥー教」についてのお話です。

まずベナレスと言えば、聖なるガンジス河でしょう。そこに集まる大勢のヒンドゥー教徒が沐浴をする姿は、まさにインドを象徴する風景と言っても過言ではありません。

ちなみにそのヒンドゥー教

とは現在のインド人の8割が信奉する宗教です。また古代インド土着の宗教・バラモン教と融合した歴史がありますので、同じ古代インド発祥の仏教とは思想的に似通った部分のあることが特徴です。

またヒンドゥーの神様は、日本ではインド料理屋などで左上写真のような絵画として見かけることが多く、もしかすると日本人にとってどこか懐かしい感じがするのではないのでしょうか。いや、そのよ



うな絵は見たことがないという方、それでは日本の七福神はご存じでしょうか。その中の「大黒天」「毘沙門天」「弁財天」は、ヒンドゥー教の神様をルーツとしています。このようにヒンドゥー教の神々は意外と日本人の身近におら



れ、そのお姿は日本で見る仏像との類似点も多く、また日本の神仏と同じ様に一つの宗教の中にたくさんの方々が存在し（多神教）、興味深い神話がこれもまた日本の神道と同様、現在のインドにもたくさん残っています。

そして日本の仏教や神道の中にヒンドウの神々を取り込まれているように、仏教開祖のお釈迦様もヒンドウ教の多々ある神々の中の最も重要な神の一人・ヴィジュヌの十化身の内、九番目（最も新しい神・十番目はまだ現世には現れていないとされる）の化身として登場します。そのため、私たちのツアーに帯同したインド人ガイドさんは、お釈迦様の聖地に着くたびに礼拝をされていました。

最後になりましたが、ガンジス河での沐浴について書いておきます。『沐浴』とは、「（宗教的儀礼として）水で身体的汚れを洗い清めることと。その人がもっている宗教上の穢（けがれ）を祓除（はつじょ）すること。」と

あります。しかしこれはなにもヒンドウ教だけでなく、仏教でもお釈迦様は頻繁に沐浴されていますし、神道でも沐浴の概念があります。またキリスト教の洗礼においても水の中で体を清める儀式を行いますから、宗教世界においては万国共通の儀式と考えて良いでしょう。是非、ベナレスを訪れた際には、聖なるガンジス河での沐浴を体験していただきたいものです。

このベナレスは、これまでの連載で何度も書きましたが、インドで始まった様々な宗教が今なお平和裏に共存し、その長い歴史の中でさらに東アジア地域で育まれた日本仏教の多様性を再確認させてくれた町でした。